



重文指定の 灯台どうだい?

不動まゆう

すがしま
菅島灯台
(三重県鳥羽市)

番外編①

搬も容易という利点があつた。菅島灯台の煉瓦

煉瓦灯台だが、そのこと

が関係しているのだろうか。

ントンが初めて手がけた

煉瓦灯台だが、そのこと

が関係しているのだろうか。

「日本の灯台の父」とは、三重県渡鹿野島の瓦職人である竹内仙太郎が造りの灯台は4基あり（灯台守育成のため横浜市に建てられた試験灯台）。

明治2（1869）年に来日し、8年間の在日期間に25基の灯台を建てた。そのうち煉瓦を建てる。そのうち煉瓦を焼いたことが、刻印され

今回の数には含めていない。明治6（1873）年7月に初点した菅島灯台は、日本の現役煉瓦灯台として最古参だ。

灯台の素材は建てる場所や工期といった条件に合わせて選定されるが、煉瓦は量産可能な人工素材であり、石に比べて運

さて、菅島灯台は他の煉瓦灯台である御前崎や犬吠埼、房屋崎灯台と比べて異なる点が多い。灯塔が寸胴のように太く、菅島だけがこんな形なの

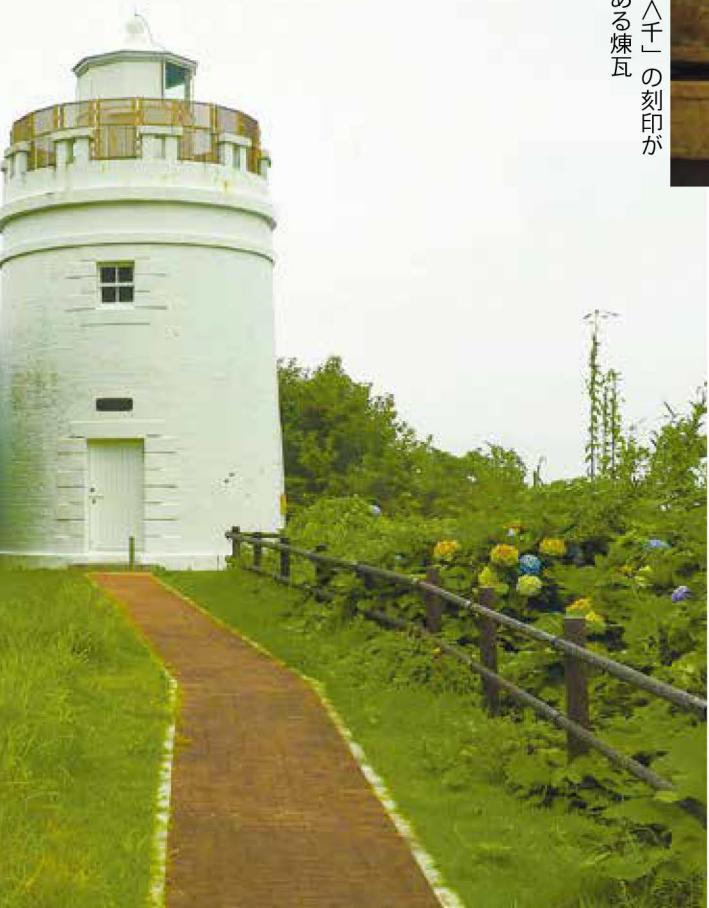
つまり、日本で焼いたなみに官舎は現在、犬山市博物館明治村に移築展示されている。

御前崎を着工していることを考えるとこの考えに

も疑問が残る。ほかには不動光だったため分銅筒にヒントを見出せるだろうか。想像を描き立てら

うか。想像を描き立てら

うか。想像を描き立てら



他の煉瓦灯台と相違点の多い菅島灯台



「八千」の刻印がある煉瓦

現役煉瓦灯台の最古参

清水灯台
(静岡市)

番外編②

最先端技術と天女が舞う風見鶏

形で清水港の建築工事に合わせて建てられた。灯台が港と町の発展に不可欠な存在だと考えられていたことがよくわかる。

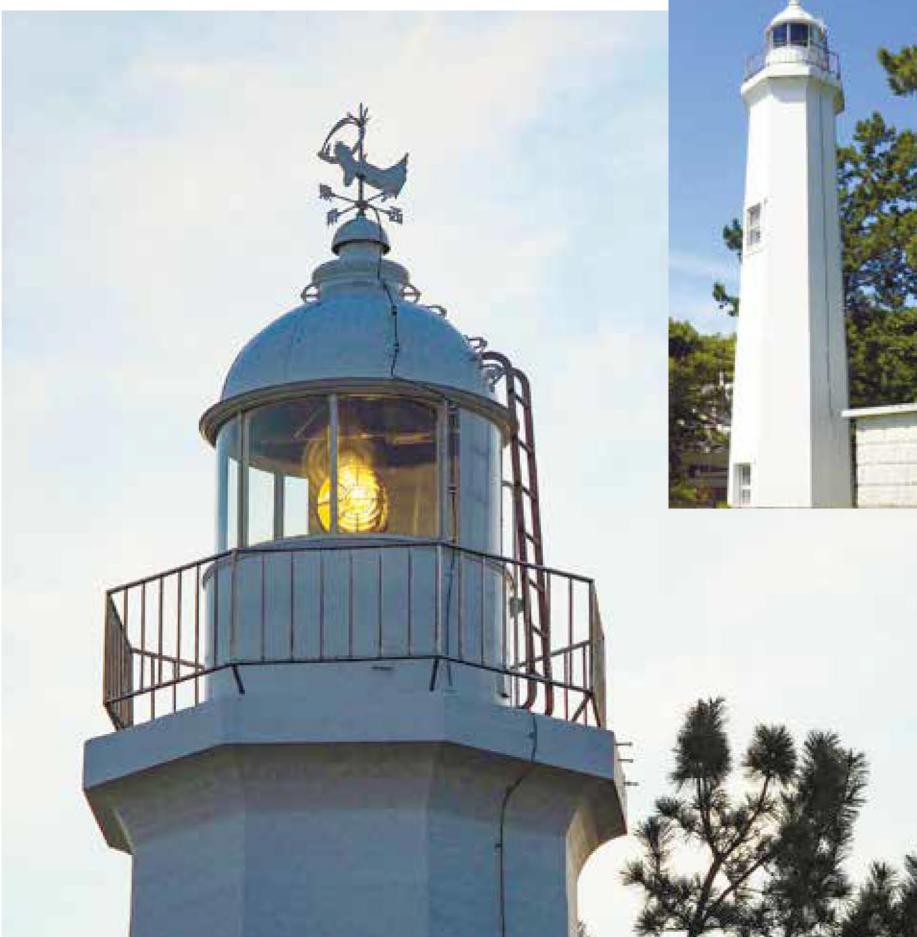
港として成長したのは灯台があってこそだろう。点灯から110年が過ぎた今年、重要文化財として文化的価値も認められることになった。日本

初の鉄筋コンクリート造った。灯塔の高さは極めて低く12角形をしてい

風見鶏で舞う天女は美保の松原に伝わる羽衣伝説にちなんだ。清水灯台が遠隔管理されるようになった平成7（1995）年に、最後の灯台守をしていて方の娘さんがデザインしたものらしい。地元の伝承と灯台のコラボが訪れる人を楽しませてくれている。清水灯台が点灯したのは明治最後の年。地元からの強い要望をかなえる

大正時代に建てられた鉄筋コンクリートの灯台である。彈塙灯台、勝浦灯台や、福岡県の白洲灯台など砂地で地盤が柔らうに思う。

夕日に浮かぶ天女（風見鶏）のシルエット（下）と最先端の土木技術が使われた灯台の全景（右）



は常に当時の最先端土木技術が使われ、創意工夫がされてきた構造物のよ